週刊日本株レポート（7/25～7/29）　～ FOMCや4-6月期決算発表を控えた様子見姿勢などから方向感の出難い展開 ～

2022年7月25日作成

1. 日米株式と円／ドルの推移

＜日本株（日経平均）＞

＜米国株（NYダウ）＞

＜円/ドル＞

（注）チャートは過去1年

	単位	2021/12/31	2022/6/30	2022/7/22	過去3年高値		過去3年安値	
		（前年末）	（前月末）	（前週末）	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	28,791.71	26,393.04	27,914.66	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ﾄﾞﾙ	36,338.30	30,775.43	31,899.29	36,952.65	2022/1/5	18,213.65	2020/3/23
円/ﾄﾞﾙ	円	115.08	135.72	136.12	139.39	2022/7/14	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場　先週の振り返り

～ 米金融引き締めに対する過度な懸念の後退や、米企業の相次ぐ好決算を背景に上昇 ～

先週の日本株市場は、日経平均が+1,126.19円（+4.20%）、TOPIXが+63.47ポイント（+3.35%）となり、米金融引き締めに対する過度な懸念の後退や、米企業の相次ぐ好決算を背景に上昇しました。業種別（東証33業種）でみると、海運業、電気機器、機械、ガラス・土石製品などの31業種が上昇した一方、電気・ガス業、医薬品の2業種が下落しました。

連休明け19日は、FRB（米連邦準備理事会）高官から0.75%の利上げを支持する発言が相次いたことや先々週末に発表された7月のミシガン大学消費者信頼感指数で消費者のインフレ期待が低下したことなどから、米金融引き締めやインフレに対する過度な懸念が後退し、上昇して始まりました。翌20日は、前日の米国株市場が企業の相次ぐ好決算や、ロシアからドイツへの主要ガス輸送パイプラインが定期点検を終えて供給を再開することへの安心感を背景に大幅高となった流れを引き継ぎ、大きく上昇幅を拡げました。その後週末にかけても、日銀が現状の金融政策の維持を決定したことへの安心感などから堅調に推移して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
7月25日	Mon	ドイツ	IFO企業景況感指数	7月	92.3
7月26日	Tue	米国	消費者信頼感指数	7月	98.7
			新築住宅販売件数	6月	696千件
			FOMC（米連邦公開市場委員会）（27日まで）		
		国際	IMF（国際通貨基金）世界経済見通し（WEO）公表		
7月27日	Wed	中国	工業利益（前年比）	6月	▲6.5%
		米国	耐久財受注（前月比）	6月	+0.8%
7月28日	Thu	ドイツ	CPI（消費者物価指数）（前年比）	7月	+7.6%
		米国	GDP（国内総生産）速報値（前期比年率）	4-6月期	▲1.6%
7月29日	Fri	日本	失業率	6月	2.6%
			鉱工業生産（前月比）	6月	▲7.5%
		欧州	ユーロ圏CPI（除食品・エネルギー・たばこ/前年比）	7月	+3.7%
			ユーロ圏GDP速報値（前期比）	4-6月期	+0.6%
		米国	PCE（個人消費支出）物価指数（前年比）	6月	+6.3%

決算発表予定　他	国内	決算発表　：	7/25 ｺｴﾃｸH 7/26 ﾏｷﾀ、ｷﾔﾉﾝ、ｶﾌﾟｺﾝ、ｵﾑﾛﾝ、日東電工、ｼﾏﾉ 7/27 中部電力、JR東海、日本取引所、東ｶﾞｽ、ﾌｧﾅｯｸ、ｴﾑｽﾘｰ、日立金、信越化、小糸製 7/28 積水化学工業、武田薬、日立物流、NRI、ﾙﾈｻｽ、ｱﾄﾞﾃｽﾄ、NEC、ｵﾘﾗﾝﾄﾞ、信金中央金庫、ｷｰｴﾝｽ、日産、三菱電、村田製、富士電、ﾋｭｰﾘｯｸ、三井住友TH、ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ 7/29 商船三井、大塚HD、ｱｲｼﾝ、第一三共、ﾔｸﾙﾄ、JT、Monot、ｺﾏﾂ、JR東日本、ｿﾆｰG、日立、KDDI、味の素、豊田通商、ZOZO、日本酸素H、豊田織、三井住友FG、SGHD、みずほFG、SCSK、LIXIL、ｴﾌﾟｿﾝ、大和証G、ローム、関西電、ﾐｽﾐG、ﾃﾞﾝｿｰ、りそなHD、TOTO
	海外	決算発表　：	7/25 NXPｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀｰｽﾞ 7/26 UBSｸﾞﾙｰﾌﾟ、GM、UPS、ﾕﾆﾘｰﾊﾞ、GE、ｺｶ･ｺｰﾗ、ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ、ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ、3M、TI、ﾋﾞｻﾞ、ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ 7/27 ﾒﾙｾﾃﾞｽ･ﾍﾞﾝﾂｸﾞﾙｰﾌﾟ、ﾀﾞﾉﾝ、ｸﾞﾗｸﾛ、ﾛｲｽﾞ･ﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ･ｸﾞﾙｰﾌﾟ、BASF、ｴｱﾊﾞｽ、ﾎﾞｰｲﾝｸﾞ、Tﾓﾊﾞｲﾙ、ﾒﾀ･ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑｽﾞ、ﾌｫｰﾄﾞ、ｸｱﾙｺﾑ、ﾄﾞｲﾂ銀行、ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ･ｸﾞﾙｰﾌﾟ、ｽﾎﾟﾃｨﾌｧｲ、ﾏﾙﾁ･ｽｽﾞｷ 7/28 ﾈｽﾚ、ｼｪﾙ、ﾌｫﾙｸｽﾜｰｹﾞﾝ、ﾒﾙｸ、ｽﾃﾗﾝﾃｨｽ、ﾊﾈｳｪﾙ、ﾌｧｲｻﾞｰ、ｻﾉﾌｨ、ｺﾑｷｬｽﾄ、ｻﾑｽﾝ電子、ﾏｽﾀｰｶｰﾄﾞ、ｱｯﾌﾟﾙ、ｳﾞｧｰﾚ、ｲﾝﾃﾙ、ｱﾏｿﾞﾝ、STﾏｲｸﾛ、ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ 7/29 ﾙﾉｰ、BNPﾊﾟﾘﾊﾞ、ｴﾙﾒｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、ｴｸｿﾝﾓｰﾋﾞﾙ、ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ、P&G、ｼｪﾌﾟﾛﾝ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場　今週の見通し

～ FOMCや4-6月期決算発表を控えた様子見姿勢などから方向感の出難い展開 ～

今週の日本株市場は、FOMCや4-6月期決算発表を控えた様子見姿勢などから方向感の出難い展開を予想します。

足元では、企業景況感の悪化やインフレ率の高止まり、天然ガス等の資源供給を含めたウクライナ情勢を巡る不透明感などを背景に、世界景気の悪化懸念が強まっています。また、国内においても、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が続いており、自粛ムードの高まりなどが意識されやすい状況です。係る環境下で、26-27日に開催されるFOMCでは0.75%の利上げが予想されており、金融引き締めが景気に悪影響を与えるとの見方が意識されやすい状況です。加えて、FOMC後の記者会見においてパウエルFRB議長が今後も積極的な金融引き締めを継続する姿勢を示すことへの警戒感もあり、株式資産を積極的に買い難い状況は続くとみています。一方、本格化する日米企業の4-6月期決算において底堅い業績が確認されれば、これまで企業業績への警戒感が高まっていたこともあり、一定の買い安心感に繋がる可能性もあると予想します。その他の注目材料として、日本では29日の失業率、鉱工業生産、米国では26日の消費者信頼感指数、28日のGDP、欧州では29日のユーロ圏CPI、ユーロ圏GDP、ドイツでは25日のIFO企業景況感指数、中国では27日の工業利益、国際では26日のIMF世界経済見通しなどが挙げられます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL：https://www.alamco.co.jp
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第301号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント（以下、「当社」といいます。）が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。